

(↓邦文題目: MSゴシック, 12 pt, Boldにしない, 用紙上端より41 mmあける)

第37回日本熱物性シンポジウム 講演論文執筆要綱

(↓英文題目: Times New Roman, 11 pt, Bold, 1行あける)

MANUSCRIPT PREPARATION FOR THE 37TH JAPAN SYMPOSIUM ON THERMOPHYSICAL PROPERTIES

(↓著者名(所属略称), 講演者に○印, MS明朝, 10 pt, 1行あける)

○岡山太郎(岡山大院) 中国花子(岡山大工)

○Taro OKAYAMA* and Hanako CHUGOKU**

* Graduate School of Natural Science and Technology, Okayama University, Okayama, 700-8530, Japan

** Faculty of Engineering, Okayama University, Okayama, 700-8530, Japan

Corresponding author: Taro OKAYAMA, E-mail: *****@okayama-u.ac.jp

(↑Times New Roman, 10 pt, 1行あける)

Abstract should be written in single-spaced style using 9 point Times New Roman. The length of the abstract should be approximately 15 - 20 lines. -----

(2行あける)

1. 緒言 (←MSゴシック, 10 pt, Boldにしない)

本執筆要綱は, 第37回日本熱物性シンポジウムの講演原稿に適用するものである. 本要綱で指定のないものについては, 会誌「熱物性」の原稿執筆の手引きによる.

(↑本文, MS明朝, 9 pt)

2. 原稿

2.1 ファイルフォーマット (←MSゴシック, 9 pt)

原稿は本執筆要綱の書式に従い作成し, Adobe PDFフォーマットで提出する. 原則, これ以外のファイル形式は受理しない. なお, 原稿をMS-Wordで作成する場合は, シンポジウムホームページよりサンプルファイル(MS-Word)をダウンロードして上書きして作成することを推奨する. 新たにファイルを作成する場合は以下に示す書式に設定する.

2.2 用紙およびフォント

用紙・頁数はA4版用紙, 3頁とし, 余白を以下のように設定する.

上余白: 21 mm, 下余白: 23 mm

左余白: 20 mm, 右余白: 20 mm

本文は2段組とし, 段間隔は8 mm (段幅81 mm), 25文字×52行になるようにする.

原稿の標準フォントは「和文:明朝体, 英文:Times New Roman, Symbol」, もしくは, 上記のフォントに準じたフ

ォントとする.

特に指定がない限り和文フォントは9 pt, 英文フォントは10 ptで記述する.

2.3 書式設定方法 (MS-Wordの場合)

「ファイル→ページ設定」メニューを選び, 「設定対象」を文書全体にする. 「余白」タブを開き, 本執筆要綱に従って余白を設定する(上21 mm, 下23 mm, 左20 mm, 右20 mm). 「文字数と行数」タブを開き, 「フォントの設定」をクリックする. 和文・英文フォントをそれぞれ「MS-明朝」・「Times New Roman」にし, 文字サイズを9 ptに設定する. 次に行数を52行に設定する.

3. タイトルページ

3.1 論文題目

第1ページの用紙上端に41 mm (上余白からは20 mm)の空白をあけ, MSゴシック12 pt, 中央揃えで邦文題目を記入する. 1行あけて英文題目をTimes New Roman, 11 pt, 大文字(Bold), 中央揃えで記入する.

3.2 著者名・連絡先

英文題目の下1行あけて, 明朝体10 pt, 中央揃えで著者名を記入する. 氏名の後に所属機関の略称を括弧でくくって記載する. 複数著者の場合は全角スペースで区切る. 2行にまたがる場合は, シングルスペースで改行する. 講演者名の前に○印をつける.

改行し、英文による著者名をTimes New Roman 10 pt, 中央揃えで記入する。姓(Family Name)は、大文字のみを用いて表示する。連名の場合、講演者名の前に○印をつけ、各著者名はカンマ(,)で区切る。次の行に英文による所属、住所、その下に代表者氏名および電子メールアドレスを記入する。

3.3 英文アブストラクト

1行あけて英文アブストラクトを約20行, Times New Roman 9 pt, シングルスペースで記入する。

4. 本文

4.1 見出し

見出しは、「2.○○」(節)、「2.1△△△」(項)のように通し番号をつけ、左揃え、インデントなし、それぞれMSゴシック 10 pt, MSゴシック 9 ptで記入する。節の見出しは、前の本文の後に1行あける。

4.2 数式

数式は以下の例のように、中央揃え、10 ptで記入し。式番号を右揃えで記入する。上付き・下付き文字は6 ptとする。数式はMath Typeなどで作成するのが望ましい。

$$\mu' = \mu_0 / (1 - \alpha p_v) \quad (1)$$

式中では、分数はなるべくa/bのような表記にする。本文中で式を参照する場合は、「Eq. (1)」のようにする。

4.3 図表

図表は必ず本文中で参照し、該当箇所の近くに配置する。本文中で図表を引用する場合には、図1や表1のように記述する。

Table 1 Empirical equation of suspensions

Author	Year	Expression
Hatschek	1911	$m_s = \frac{m_0}{1 - p_v^{1/3}}$
Taylor	1932	$m_s = m_s / m_0 = 1 + f p_v$

図は見やすく大きめのものを用意し、グレースケールやカラー画像(文字)は印刷が不鮮明になるのであるべく使用しない。印刷用PDFとは別に、CD-ROM用のカラー画像などを用いたPDFを別途提出しても良い。

図表中の文字・語句はすべて英語で記入し、本文の文字と同程度の大きさにする。図および表のキャプションは9 ptの英文で記入する。説明句が複数行にまたがる場合はシングルスペースで改行する。図1および表1に図表記載の例を示す。

5. 記号

記号は、本文終了後1行あけ、10 ptのボールド体で**NOMENCLATURE**と標記して改行し、10 pt文字、シン

グルスペースで記号説明を英文で列記する。

用紙に余裕がない場合は省略してもかまわないが、その場合は必ず本文中で記号・単位を説明する。参考例を本執筆要綱の後に示す。

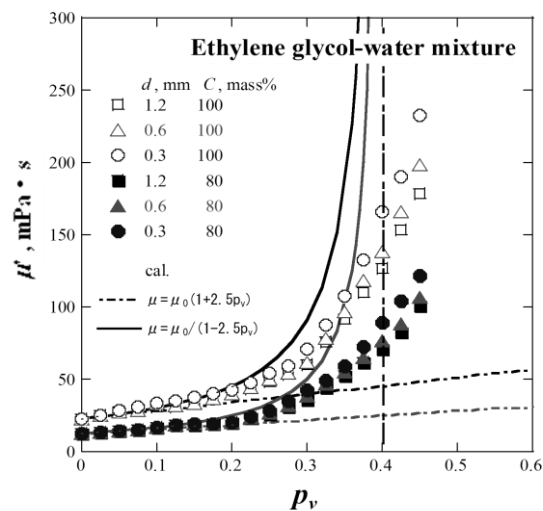


Figure 1 Relationship between the effective viscosity and the fraction of solid phase.

6. 参考文献

本文中で文献を引用する際は、[1], [2,3], または[4-6]のように通し番号を付けて引用する。

参考文献リストは記号表の後に1行あけ、10 ptボールド体で**REFERENCE(S)**と標記して改行し、番号順にシングルスペースで列記する。

和文の文献は英訳して記載する。文献の著者が複数の場合は、著者全員の名を記載する。著者名の中のandは省略してもよい。できれば論文題目も記載するのが望ましい。雑誌名を省略標記するときは、Chemical Abstract誌による(またはISO 833に準拠する)こと。

本執筆要綱の最後に、雑誌[1], 書籍[2], 予稿集[3]の場合の参考文献リストの例を示す。

NOMENCLATURE

- D: diameter, mm
- C: concentration, %
- μ' : effective viscosity, Pa·s
- p_v : solid phase volume fraction

REFERENCES

- [1] A.Einstein, "A New Determination of Molecular Dimensions", Ann. Phys.,19(1906), 289.
- [2] S.E.Charm, G.S.Kurland, "Blood Rheology in Cardiovascular Fluid Dynamics", Vol.2, Chap.15, Academic Press, London (1972), 157-203.
- [3] T.Yokohama, H.Fukuzawa, Proc.31st Jpn. Symp.Thermophys. Prop., Fukuoka (2010), A233.